

## 魅力的な公園づくりについて (到津の森公園における取組みと民間活力を活用した公園整備について)

### 1 本市における公園づくり

本市においては、「北九州市緑の基本計画」(令和4年1月 第2回改定)に基づき、「多様な主体が育む 持続可能で、みどりがいきづくまちづくり」をテーマに、みどりの保全や緑化、公園の整備などを推進している。

到津の森公園については、開園当初から市内唯一の動物公園として、多くの人々に来園してもらえるよう魅力ある公園づくりに向けた取組みを進めている。

また近年では、本市の厳しい財政状況を踏まえ、計画に掲げる将来像を実現していくため、民間活力を活用した公園整備を実施している。

### 2 到津の森公園における取組み

#### (1) 公園の概要

「到津の森公園」は、「旧到津遊園」の閉園の発表後の当時26万人を超える存続署名や市議会の全会一致の存続決議などを受け、市が引き継ぐ形で平成14年4月に開園した。

「市民と自然とを結ぶ窓口」という基本理念を掲げ、自然や動物、人にやさしい公園を目指している。本年度は、開園から20年を迎えたことを機に、動物の展示施設の整備、南側エントランスのリニューアル、他施設との連携事業などに取り組んでいる。

#### (2) 入園者数

令和元年度までは、毎年38万人前後の入園者数で横ばいの状況であるが、開園以来の来場者は750万人を超えている。一方で、コロナ禍の緊急事態宣言の影響で、令和2年度、令和3年度に各1回ずつの休園を余儀なくされた。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
入園者数(人)	378,742	265,364	326,474

※休園期間 R2.4.9～5.17(39日間)、R3.5.12～6.20(40日間)

#### (3) 管理運営

指定管理者である(公財)北九州市どうぶつ公園協会が管理運営を行っている。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
指定管理料 (千円)	124,285 (8,875)	164,498 (54,707)	131,474 (15,826)

※( )は新型コロナによる休園の補填費用で内数

※令和元年度、2年度は決算、3年度は決算見込み額(補正含む)

#### (4) 動物の飼育展示

令和4年4月現在、90種480点の動物を飼育展示しており、自然環境と動物が一体となった生態展示に取り組んでいる。

#### (5) 市民が支える公園

「友の会」や「動物サポーター」、「基金」、「ボランティア」など多くの市民に支えられており、下表のとおり金額は、ほぼ横ばいの状況である。

##### ア 友の会、動物サポーター、基金の合計 (単位：千円)

令和元年度	令和2年度	令和3年度
26,596	27,038	29,759

##### イ ボランティア

市民ボランティア「森のなかまたち」(令和4年3月末現在 会員103人)、「ちからの会」(同 18 団体)などが、園内でのイベント活動、園のPRや広報などの活動を行っている。

#### (6) 自然環境教育施設としての取組み

##### ア 林間学園

数日間(令和3年度は3日間)のプログラムの中で、動植物に親しみ、友情を深めながら子どもたちに社会性を身に付けてもらうことを目的に実施している。

(令和3年度の参加者162名)

##### イ 学校の社会見学等

令和3年度 277校 19,847名

(幼稚園、保育所、保育園、小中学校・支援学校、市外学校を含む)



#### (7) 園の魅力を高める取組み

##### ア 他の動物園との連携による動物の導入

R1.12 ライオン1頭(オス)を大分県・アフリカンサファリから導入

R4.9 ミドリコンゴウインコ1羽(オス)を静岡県・伊豆シャボテン公園から導入予定



## イ. 遊具施設の充実等

### R3.4 観覧車の再稼働

同上 ファイヤーファイター(回転する乗り物に乗って、水鉄砲を撃つ遊具)、

R3.10 ハッピーカンガルー(座席が上下に跳ねるように動く遊具)など

## ウ 20周年事業等

### R4.5 チェーンソーカービングの実施

R4.7 おでかけ応援事業として、入園料を無料化(8月末まで)

いのちのたび博物館との連携事業(サテライト紹介、スタンプラリー)実施

R4.秋 レッサーパンダ遊び場(運動場)の整備(現在整備中)、式典開催

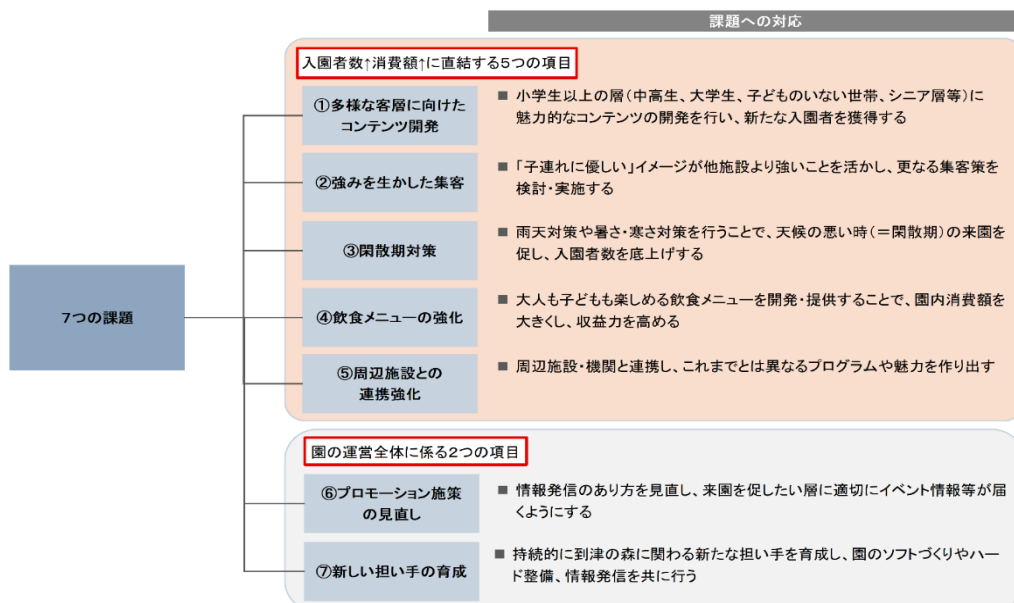


## エ 南側エントランス整備事業

5ページ「3 民間活力を活用した公園整備 (2)到津の森公園」のとおり

## (8) 現状の課題調査及び今後の取組み

「将来ビジョンに関する調査」(令和4年2月 建設建築委員会報告済)で抽出された、「多様な客層に向けたコンテンツ開発」、「強みを活かした集客」などの課題解決に引き続き取り組むとともに、園の魅力向上に努める。また、これまでの基本理念や基本方針を総括するとともに、新たな将来ビジョンの策定に取り組んでいく。



### 3 民間活力を活用した公園整備（Park-PFI）

全国的に地方公共団体の財政制約が深刻化する中、都市公園の魅力向上や施設の整備、更新を持続的に進めていくためには、民間資金のより一層の活用が求められている。

こうした背景をもとに、平成29年の都市公園法の改正により、民間活力による新たな都市公園の整備手法として公募設置管理制度(Park-PFI)が創設された。

本市においては、Park-PFI の全国初の事例として、平成29年に勝山公園で実施し、令和3年からは到津の森公園においても同制度を活用した事業に取り組んでいる。

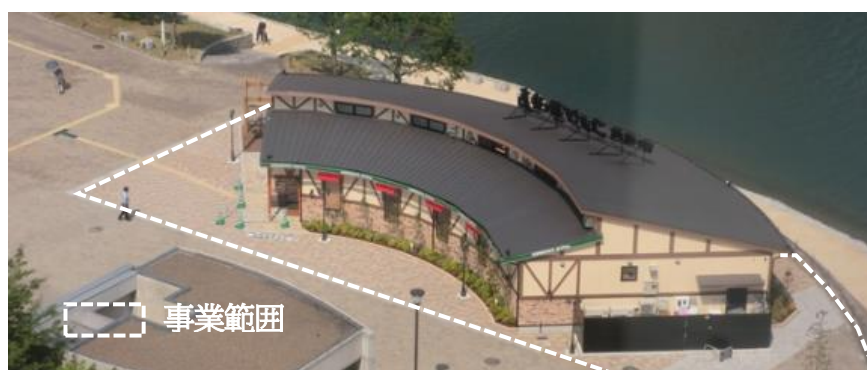
#### 公募設置管理制度(Park-PFI)

都市公園内において、飲食施設などの公園利用者の利便性向上に資する施設の設置と、そこから得られる収益を活用して、周辺の園路、広場等の公園施設の整備を一体的に行う民間事業者を公募により選定するもの。

#### (1) 勝山公園

本市のシンボル公園である勝山公園の鷗外橋西側橋詰広場において、公園利用者の利便性の向上や新たなサービスの提供による公園の魅力向上、賑わいの創出を図るため、飲食施設を整備するもの。

整備概要	①飲食施設 ②飲食施設周辺の園路、広場、パーゴラ、植栽 等 ※①は事業者が整備運営。②は事業者が整備し、市へ有償譲渡。
実施する飲食事業	珈琲所コメダ珈琲店
供用開始時期	平成30年7月
事業者	(有)クリーンズ
事業期間	平成30年度～令和19年度
本市の土地使用料収入	2,400千円/年
本市負担額	13,000千円



## (2) 到津の森公園

到津の森公園においては、南側エントランスが幹線道路から奥まった位置にあり、印象の薄い空間となっていることや、屋内で飲食や休憩ができるスペースが不足しているといった課題がある。

そこで、到津の森公園の賑わいづくりや魅力向上を図るため、南側エントランスにおいて、来園者の期待感を高揚させるような動物公園にふさわしいエントランス施設や飲食施設を整備するもの。

整備概要	①飲食施設、駐車場 ②エントランス施設、エレベーター、階段、広場 等 ※①は事業者が整備運営。②は事業者が整備し、市へ有償譲渡。
実施する飲食事業	スターバックスコーヒー
供用開始時期	令和5年3月予定
事業者	大和リース(株)北九州支店
事業期間	令和4年度～令和24年度
本市の土地使用料収入	3,492 千円/年
本市負担額	208,000 千円



## (3) 今後の取組みについて

Park-PFIは、公園整備の手法として有効であることから、個々の公園の実情や民間事業者の声を踏まえ、事業化の可能性があれば、今後も活用を検討する。